

ほっと胸なでおろす関係者

水俣病補償
調停委設置

公正な結論期待したい

顔を紅潮させる山本会長

水俣病補償調停委員会の設置で、地元水俣市では水俣病患者家族互助会の厚生一任派、自主交渉派、チソ工場、水俣病対策市、西会、市、それに一般市民とそれぞれ立場の違いこそあれ「やっと決まったか、決まったからには公正な結論を出してほしい」と胸をなでおろしながら第三者機関に期待するところが大きい実情だ。

調停委員を提出し、厚生省に第三者機関の人選まで二任した厚生省一任派の代表、山本吉助会会長は「いよいよ決まりましたか」と調停委員を紅潮させ「今か今かと待っていました。会派たちは仕事も手につかない状態だった。人選の一任は公正な判断をしてくれるだろうと信じていたからであり、その点で期待する。いずれ第三者機関にこちらに來られるだろうし、そのうちこの事情も十分聞いてもらう。どう決まるかわいたしにはわからないが、一日も早く結論を出してほしい」と一任派と第三者機関に掛けられたことには「ほっと胸なでおろす」と胸をなでおろす。

安心してまかせろ

会社側

水俣病対策市市民会館の松本事務局長は「調停委員はどんな方法にしても十数年間の患者の苦しみを償える点に、特に胎児の患者の救済をどうするかが一番大きな問題だ。調停委員のちいさいが、調停委員がなっているからといって生活しづらいか、その具体策がほしい」と、一時的な解決策では真の解決策をどうするかが一番大きな問題だ。調停委員のちいさいが、調停委員がなっているからといって生活しづらいか、その具体策がほしい」と、一時的な解決策では真の解決策をどうするかが一番大きな問題だ。

水俣病対策市市民会館の松本事務局長は「調停委員はどんな方法にしても十数年間の患者の苦しみを償える点に、特に胎児の患者の救済をどうするかが一番大きな問題だ。調停委員のちいさいが、調停委員がなっているからといって生活しづらいか、その具体策がほしい」と、一時的な解決策では真の解決策をどうするかが一番大きな問題だ。

んだ市の緒方総務局長は「第三者機関の費用の問題をどう取りかかっているか、せつなくかんたんな解決の糸口だ。国が直ちに経費支出できないとなれば、地元の要請に基づいて設置され第三者機関であり、費用は当然市が肩代わり

することとした方がいいのではないか」と語っており、今後第三者機関を中心に補償問題が一気に明るい解決の方向へ向かうよう希望している。

審理促進に県も側面的協力

水俣病補償のあつせんにあたる第三者機関の委員が決まったことで、県当局者は一様に「權威のあるメンバーだ」と喜んでいる。

協議委員の調査委員長は「審理が始めれば、一旦これまでの経過なり現状を説明することになる。審理の促進に県は側面的に協力したい」と言っている。

結論が出るまで機動的に協力をい。十月ごろには公害紛争処理法なども発効することだし、公害処理の實質的の前例にもなるので、社会の動向に照る結論が出るまで期待したい。

裁判に持ち込まれることによって、はなせざるを得ないが、いまからでも、一人でも多く委員があつせん機関の方に加わっていただきたいと思う。チソとしてはなるべく円満に解決したいと思っております。裁判になれば長引くことだろうし、努力にのぞいていい結果は生まれないと思つた。

患者にも希望ができた

田前厚生大臣の臨 二千三百

新機組から相談があったが、通